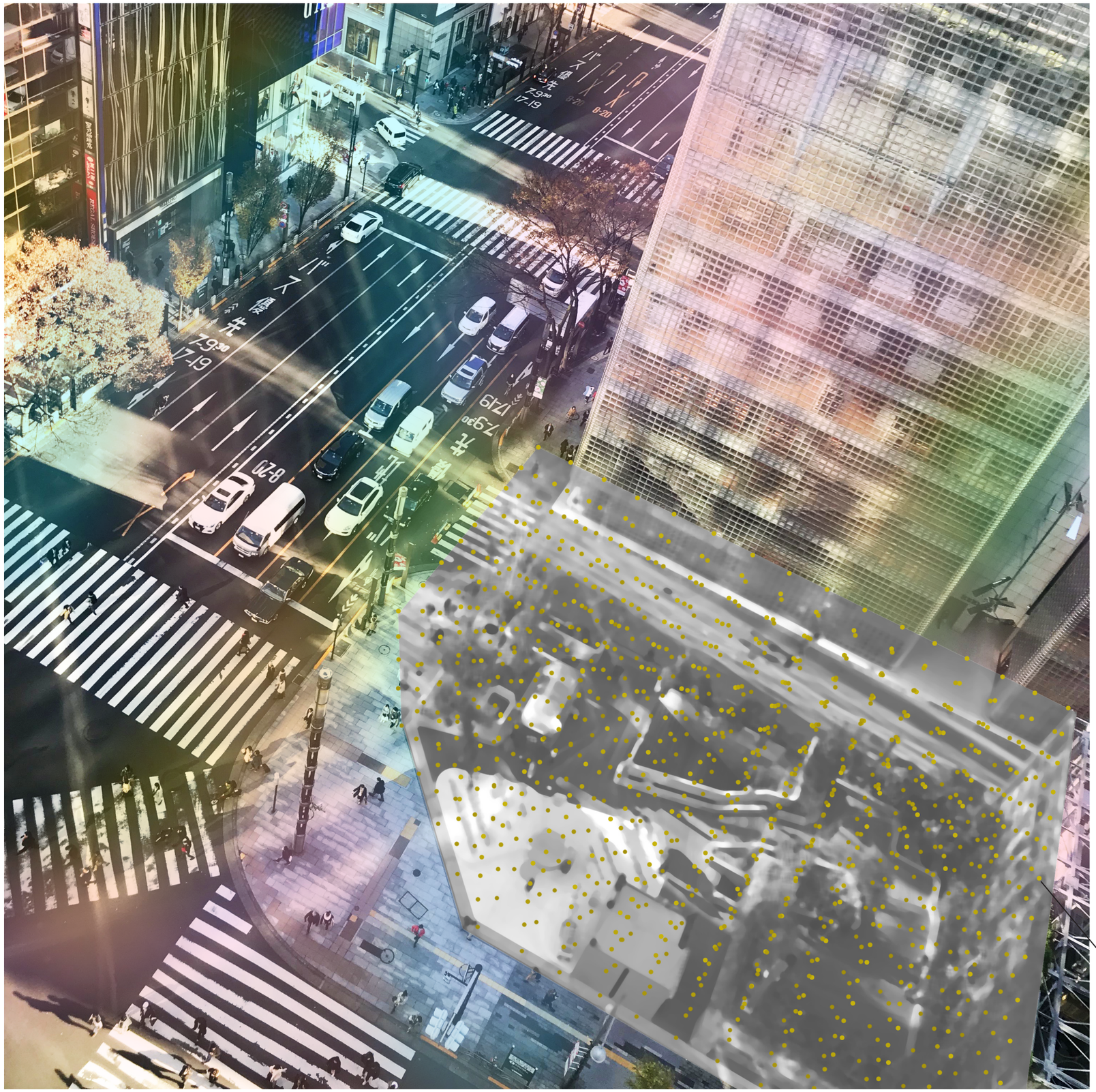
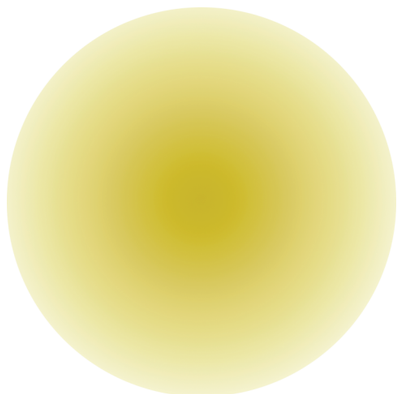
喧噪の銀座、静寂の街角



賑やかな銀座の街にあって、Ginza Sony Parkは潔いオープンスペースを提供しています。煌びやかな商業ビル群のもつ情報密度とは大きなコントラストがあり、喧噪の中から自分を取り戻す余地のある自由な雰囲気を持っていると言っていいかも知れません。しかしながらSony Park は銀座を象徴する数寄屋橋交差点に位置しており、常に晴海通りの騒音のなかにあります。ここでは”Reflective Pods of Pause”の概念を拡張し、Ginza Sony Park全体にノイズキャンセリングを施すことで、これまでどおり都市に開かれた環境を維持しながら、音のバリアで喧噪から切り離された静寂の空間を実現します。

仕組み

Ginza Sony Park 全体をノイズキャンセリングヘッドホンに見立て、パーク外の音を打ち消す仕組みを構築します。しかしパークの開放性は都市における根本的な価値であるため、防音壁など物理的な面で隔離するのではなく、パーク内に全天候型・全方位型の小型球体スピーカーを1．5m間隔で立体的に吊り下げることで、これまでのGinza Sony Park 地上階の魅力を維持し、風や光はもちろん利用者も自由に行き来できる空間でありながら、音環境の面では街角にいるとは思えない静寂を実現します。



球体スピーカー イメージ　φ150

全方位型ノイズキャンセリングスピーカー

※
イメージにおける色彩は喧噪と静寂を視覚化したもので、実際に視覚化されるものではなく、物理的な壁を設ける訳でもありません。